

## 富山県経済の特徴

1. 富山県の概要  
(1) 地理・気候 (2) 歴史 (3) 人口 (4) 交通 (5) 富山県民の生活と県民性等
2. 富山県経済の特徴  
(1) 概要 (2) 農業・水産業の特徴 (3) 製造業の特徴 (4) 非製造業の特徴

### 1. 富山県の概要

#### (1) 地理・気候

##### 【地理】

- 富山県は、本州中部の日本海側に位置し、東西約90km、南北約76km、面積は4,248km<sup>2</sup>（わが国総面積の1.1%、全国第33位）の県です。東京、名古屋、大阪の3大都市圏からはそれぞれ約300kmと、ほぼ等距離に位置しています。
- 県東部に飛騨山脈（北アルプス）の立山連峰、南部に飛騨高地、西部に両白山地、と三方を山に囲まれ、山側から北の富山湾に向かって、山地から丘陵地、台地、扇状地、低地（富山平野）と地形が変化していきます。また、冬の間山地に降った多量の雪による雪解け水のため、豊富な水量の河川が多く、神通川、庄川等5つの一級河川があります。
- 県土面積の67%を森林が占め（2017年度、全国第26位）、県土における植生の自然度比率（自然度の高い天然林等が占める割合）は30.0%で全国第3位（1998年度）、自然公園地域の割合も29.6%、全国第6位（2018年度）と、緑と自然の豊かな県です。



(Map-It 作成)

##### 【気候】

- 日本海側気候に属するため冬の降雪が多く、年間降水量は2,751mmと全国第4位（2018年）、日照時間は全国第41位（同）となっています。年間平均気温は全国第36位で、北関東と同程度です。台風による被害は比較的少ないものの、夏の雷雨や集中豪雨の被害は少なくありません。なお、地震は極めて少なく、自然災害が少ない県といわれています。

## ▽ 富山県の地理・気候

面積	4,247.6 k m <sup>2</sup> <全国第33位> (森林 67.2%、耕地 13.7%)
最も高い山	立山 (大汝山 標高 3,015m)
一級河川	神通川 (全長 120km)、庄川 (同 115km)、常願寺川 (同 56km)、黒部川 (同 85km)、小矢部川 (同 68km)
年間降水量	2,751mm (2018年) <全国第4位> 年間降水日数 179日 (同2位) 年間降雪日数 64日 (同9位)
年間日照時間	1,799.5時間 (2018年) <全国第41位>

(出所) 富山県「100の指標 統計からみた富山<令和元年度版>」、農水省、国土交通省

## (2) 歴史

### 【奈良時代】

- 7世紀末、「越(高志・古志)の国」と言われていた北陸地方は、越前、越中、越後の3つに分かれました。8世紀半ばには、万葉集の代表的な歌人である大伴家持が越中の国守を5年間務め、その間に多くの歌を詠みました。

### 【江戸時代】

- 関ヶ原の戦い(1600年)以降、前田家が今の石川県、富山県の地域を支配しますが、江戸初期の1639年、富山県の中央部である婦負郡と新川郡の一部が「富山藩」(約10万石)として分藩され、前田利家の孫である利次が初代藩主となりました。富山藩の外側の地域は加賀藩100万石の領地でした。
- 第2代藩主 前田正甫は城下で腹痛薬「反魂丹」を作らせていましたが、江戸城で急病となった大名に供したところ効能がきめんで評判となり、その後、富山の薬は全国に販路を広げられました。
- 江戸時代には、新田開発とともに河川の氾濫に対応した治水事業が行われました。また、江戸時代後期には、蝦夷地の開発の進展により、伏木港や岩瀬港を中継地とする「北前船」の運航が盛んになりました。北前船は、蝦夷地に米を運んだ帰りに昆布やニシン等の産物を積み、さらに上方に行って蝦夷地の産物と米を売り、その帰りに上方の産物を積んで戻るといった交易を行いました。

### 【明治時代】

- 明治の廃藩置県後、数次の再編を経て、1876年(明治9年)に富山県(当時の呼称は新川県)と石川県が統合され石川県となります。しかし、河川の治水工事を求める富山と、道路整備等を優先する石川とで利害が対立したことから、1883年、富山県は石川県から分県すること

となりました。この後、富山県では歳出の多くが砂防工事や治水工事に支出された結果、大洪水の発生が減少していきました。

### 【昭和・平成】

- 太平洋戦争終結直前の1945年8月1日、富山市とその周辺は大空襲を受け、市街地のほぼ全てが焼失しました。しかし、戦後の復興は順調に進み、富山・高岡両市は1964年に新産業都市の指定を受け、工業化が進んでいきました。
- 2004年からは、富山県でも「平成の大合併」が行われ、8町村が合併して南砺市が誕生したり、富山市と6町村が合併するなどした結果、2003年までの「9市18町8村」が、2006年3月には「10市4町1村（15市町村）」になりました。



### (3) 人口

- 富山県の総人口は、1998年の112.6万人をピークに減少に転じ、2019年は104.4万人となりました(いずれも10月1日)。全国総人口に占める割合も年々減少しており、1965年(1.03%)までは1%を超えていましたが、2019年は0.83%となっています。
- 年齢別にみると、進学や就職による県外流出のため10代後半から20代前半の割合が男女とも全国と比較して少ない一方、高齢化が全国平均を上回るペースで増大しており、65歳以上の人口割合が増えています。

### ▽ 富山県の人口等

	総人口	人口密度	年少人口割合 (15才未満)	生産年齢 人口割合 (15～64才)	老年人口割合 (65才以上)
富山県	104.4万人	249人/km <sup>2</sup>	11.8%	56.6%	31.6%
全国順位	37位	25位	36位	31位	12位
全国	12,617万人	340人/km <sup>2</sup>	12.3%	60.0%	27.7%

(出所) 総務省 総人口は2019年10月1日、1世帯当り人員は2015年、その他は2017年

### (4) 交通

- 2015年3月の北陸新幹線開業により、富山・東京間は乗換なしで最短2時間8分（従来は乗換1回 3時間11分）、富山—金沢間は約20分で結ばれることになりました。北陸新幹線開業が富山県の経済に与えた影響は大きく、設備投資の増加や、観光客の入込人数の増加等につながっています。北陸新幹線は、2023年春に、福井県敦賀市まで延伸される予定となっています。
- このほか県内には、JR、あいの風とやま鉄道、富山地方鉄道等が、富山・高岡と県内各地を結んでいます。また、富山市内中心部には路面電車が走っています。2020年3月、この路面電車と富山市北部を走るライトレールが富山駅で南北接続され、市内交通の利便性が高まりました。

### ▽ 富山県の鉄道路線

鉄道会社	路線名	区 間	備考
JR 西日本	北陸新幹線	東京—金沢	県内の駅は、黒部宇奈月温泉、富山、新高岡
	高山本線	富山—岐阜	
	城端線	高岡—城端 <small>（南砺市）</small>	
	氷見線	高岡—氷見	
あいの風とやま鉄道 （第三セクター）	あいの風とやま鉄道線	石動 <small>（小矢部市）</small> —越中宮崎 <small>（朝日町）</small>	西はIRいしかわ鉄道経由で金沢まで、東はえちごトキめき鉄道経由で直江津まで直通運転
富山地方鉄道	本線	電鉄富山—宇奈月温泉 <small>（黒部市）</small>	
	立山線	電鉄富山—立山 <small>（立山町）</small>	
	不二越・上滝線	電鉄富山—岩峯寺 <small>（立山町）</small>	
	路面電車	南富山、富山大学—岩瀬浜 <small>（富山市）</small>	2020年3月、ライトレールと市内電車が直通化
万葉線	万葉線	高岡—越ノ湯 <small>（射水市）</small>	

- **空の便**では、日本で唯一河川敷（神通川）にある「富山きときと空港」から、東京、札幌への国内線、ソウル、大連、上海、台北への国際線が就航しています。富山空港は、富山駅（バスで20分）や国道41号線へのアクセスがよいという利点がありますが、北陸新幹線開業後、東京便の乗客数は減少しています。しかし、国内外への乗り継ぎの便や代替交通手段の確保という観点からは、空の便の維持が望まれています。
- 道路網をみると、高速道路では、県内を東西に走る**北陸自動車道**（新潟市～滋賀県米原市）、南北に走る**東海北陸自動車道**（砺波市～愛知県一宮市〈2008年7月全線開通〉）、**能越自動車道**（砺波市～石川県輪島市〈2015年2月全線開通〉）、国道では東西に走る8号線、南北に走る41号線、156号線が県内外を結んでいます。
- **伏木富山港**は、伏木地区、新湊地区、富山地区の3地区からなる港湾であり、能登半島に風雨が遮られる穏やかな富山湾にあることから、古く奈良時代から要港として栄えてきました。現在では、国際海上貨物輸送網の拠点として、全国で18港、日本海側では新潟港とともに2港のみの“国際拠点港湾”に選定されています。

#### （5）富山県民の生活と県民性等

- 富山県民の生活や県民性の特徴としてよく言われているのは、女性就業比率・共働き率が高く、世帯当り所得水準や持ち家比率が高く、三世帯同居が多いこともあって家が広く、社会インフラが整っており、教育や勉強に熱心で、幸福度が高いといったことです。以下のデータからも、それらが裏付けられています。

#### ▽ 富山県の家計・教育等のデータ

		富山県	全国順位	全 国	出所等
家計・労働等	勤労者世帯の収入（1か月当り）	593 千円	17 位	586 千円	総務省家計調査、県庁所在地、二人以上世帯（2019年）
	勤労者世帯の消費支出（1か月当り）	324 千円	20 位	324 千円	
	勤労者世帯の消費性向	64.8%	36 位	67.9%	
	勤労者世帯の貯蓄額	1,352 万円	16 位	1,376 万円	
	1世帯当り人員数	2.66 人	4 位	2.33 人	富山県*（2015年）
	高齢者（65歳以上）の就業率	24.2%	14 位	23.3%	
	女性の労働力率（15～64歳）	73.9%	3 位	67.3%	総務省国勢調査（2015年）
	管理職に占める女性の割合	14.4%	41 位	16.4%	
	夫婦共働き世帯比率	57.1%	3 位	48.8%	総務省就業構造基本調査（2017年）
	雇用者に占める正規社員の割合	66.9%	3 位	61.8%	総務省就業構造基本調査（2017年）

		富山県	全国順位	全 国	出所等
住宅等	一戸建て比率	78.3%	2位	55.2%	総務省住宅・土地統計調査(2018年)
	持ち家比率	78.1%	1位	62.3%	富山県 (2015年)
	専用住宅延面積	150.1㎡	1位	93.0㎡	〃 (2013年)
	自家用車保有台数(1世帯当り)	1.70台	2位	1.06台	〃 (2017年度)
社会インフラ等	水道普及率	93.1%	43位	97.9%	〃 (2016年度)
	汚水処理人口普及率	96.6%	8位	90.9%	〃 (2017年度)
	道路改良率	78.4%	1位	61.8%	〃 (2017年)
	道路整備率	74.4%	1位	59.4%	
	都市公園面積(都市計画区域内1人当り)	15.26㎡	11位	10.34㎡	〃 (2016年度)
教育・文化等	高等学校等進学率	99.4%	4位	98.8%	〃 (2018年)
	大学・短期大学等進学率	51.9%	22位	54.7%	
	老人クラブ加入率	39.2%	1位	12.8%	〃 (2017年度)
	新聞発行部数(1世帯当り)	0.98部	1位	0.70部	〃 (2018年)
	書籍雑誌販売額(1人当り)	12,088円	5位	10,301円	〃 (2016年)
	博物館数(100万人当り)	34.7館	3位	9.9館	〃 (2015年)
	公民館数(10万人当り)	28.3館	9位	11.2館	
	総合型地域スポーツクラブ数(10万人当り)	6.0	3位	2.7	〃 (2018年度)
幸福度	都道府県別「幸福度」ランキング	—	5位	—	日本総研 (2018年)

\* 「富山県」は「比べてわかる富山県」平成30年度版

## 2. 富山県経済の特徴

### (1) 概要

- 富山県の県内総生産（名目 2017 年度）は約 4.6 兆円、全国に対する比率は 0.84%と、人口の全国における比率とほぼ同程度です。一人当たり県民所得は 3,319 千円です。なお、全国順位（2016 年度）は、県内総生産が 31 位、一人当たり県民所得は 5 位となっています。
- 産業別構成比(2016 年度)では、第 1 次産業は 1.1%と全国並みですが、第 2 次産業が 38.3%(全国同 27.2%)、第 3 次産業が 60.3%（同 71.3%）と、第 2 次産業のウェイトが全国に比べて高く（北陸 3 県の中でも最も高い）、第 3 次産業が低いことが特徴です。

### ▽ 県内総生産（名目）の産業別構成比

	2016 年度、%				
	第1次産業	第2次産業		第3次産業	
		製造業	建設業		
<b>富山県</b>	<b>1.1</b>	<b>38.3</b>	<b>32.5</b>	<b>5.7</b>	<b>60.3</b>
石川県	1.0	31.5	24.1	7.4	67.5
福井県	1.0	32.8	25.2	7.5	66.0
<b>全国</b>	<b>1.1</b>	<b>27.2</b>	<b>21.4</b>	<b>5.7</b>	<b>71.3</b>

(出所)内閣府 県民経済生産

### (2) 農業・水産業の特徴

- 富山県の第一次産業生産額に占める農業の割合は 81%（2016 年度）と全国平均と同程度、水産業の割合は 15.6%と、全国平均の 13.8%よりやや高くなっています。

#### 【農業】

- 農業産出額は、651 億円、全国に占める割合は 0.7%、順位は 40 位（2018 年）です。そのうち米の占める割合が高く、69.3%と全国第 1 位、農作物に占める米の割合も 80.8%と全国第 1 位です。米の産出額自体は全国第 14 位となっています。（農水省）
- 米の品種別の作付面積は、従来「コシヒカリ」が 75%前後、早生の「てんたかく」が 10%前後でしたが、富山県農林水産総合技術センターで育成された高温に強い新品種「富富富（ふふふ）」の本格栽培が 2018 年より始まり、2019 年の作付面積は 3%となっています（富山県米麦改良協会）。
- 米以外では、ねぎ、だいこん、さといも、なし、りんご、干柿、すいか、チューリップ球根等の特産品があります。とくに、チューリップ球根は新潟県と並ぶ全国有数の産地です。栽培地域をみると、「呉羽なし」等のなしは富山市、柿は南砺市、「加積りんご」等のりんごは魚津市、チューリップ球根は砺波市、等となっています（富山県農林業センサス 2015）。

## 【水産業】

- 富山県の漁業は、富山湾の豊富な魚介類に恵まれ、定置網漁業を中心としたさんま、いわし、あじ等の沿岸漁業、いかつり、かにかご漁業等の沖合漁業のほか、まぐろはえなわ漁業等の遠洋漁業が営まれています。魚業種別漁獲量（2018年）で見ますと、富山県の海面漁獲量は4.2万t（全国第20位）、あゆやさけ類が中心の内水面漁獲量は、114t（同21位）となっています（農水省）。
- 富山県は、水産加工品も有名です。代表的な水産加工品の一つであるかまぼこ類の2018年の生産量は2,803tです（ただし生産量自体は全国第28位、都市別支出金額では富山市は3位。）。このほか、白えびやホタルイカの加工品、アジ・イワシのみりん干し、いか墨を使った黒作り等があります（農水省。支出金額は総務省）。

### （1） 製造業の特徴

#### ① 概要と歴史

- 富山県の製造業は、江戸時代からの薬業の歴史や高岡銅器の技術、河川の治水対策として建設されたダムによる安価な電力や豊富な水資源、北前船時代からの歴史を持つ富山湾の良港の存在等を背景として、医薬品を中心とする化学、アルミ等の非鉄金属、金属製品、機械等を中心に発展してきました。
- 戦前においても、一定の工業集積がみられましたが、大きく発展したのは戦後です。まず、化学、鉄鋼（電炉）、紙パルプ等が発達しました。そして、1964年に富山・高岡地区が新産業都市に指定されてからは、1968年に富山新港が開港し臨海工業地帯が整備されたこともあって、アルミ建材等の金属製品等が発展し、日本海側屈指の工業集積地に成長しました。1975年頃からは、電気機械、一般機械、輸送機械等組立加工産業への移行が進みました。
- 1984年に富山地域がテクノポリス地域の指定（全国で26地域）を受けてからは、ハイテク関連の企業も進出してきました。最近では、2015年の北陸新幹線開業により当県の利便性が向上したことを受けて、当地に拠点を設ける動きがみられています。
- 製造出荷額における業種別の構成比（2017年）をみると、化学、生産用機械、電子部品・デバイス、非鉄金属、金属製品で過半を占めており、とくに全国と比較して、化学19.0%（全国9.0%）、非鉄金属9.6%（同3.1%）、金属製品10.5%（同4.8%）のウェイトが高くなっています。



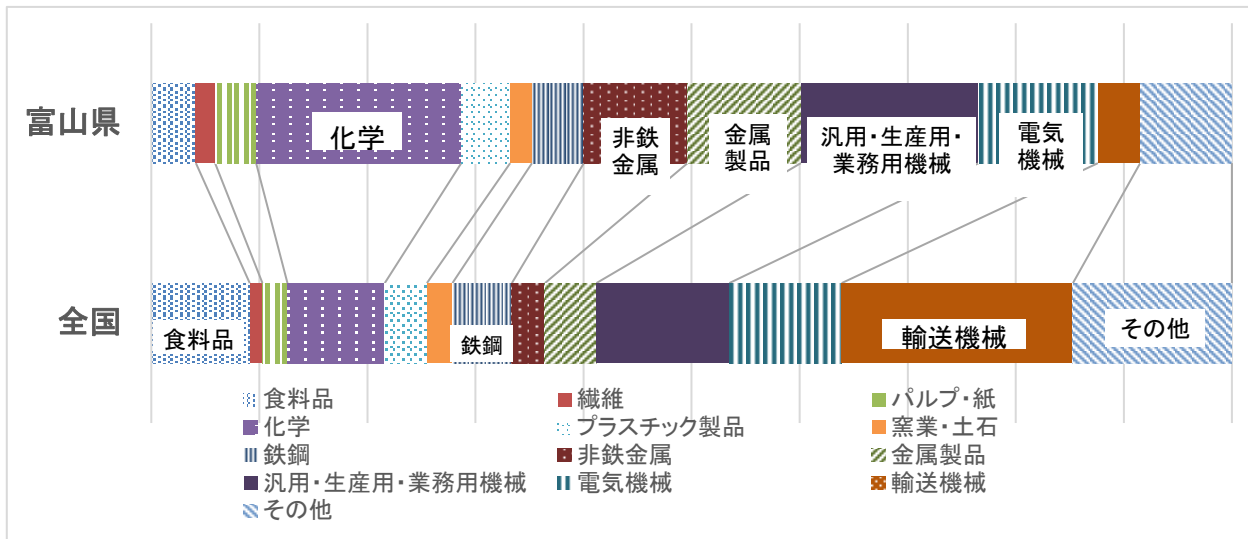
▽ 富山県の製造業業種別 事業所数・従業者数・製造品出荷額等

2017年、従業者4人以上の事業所、経済産業省 工業統計表

	事業所数		従業者数		製造品出荷額等	
	事業所数	構成比 (%)	従業者数 (人)	構成比 (%)	出荷額等 (百万円)	構成比 (%)
食料品	326	12.1	9,062	7.3	159,425	4.1
飲料・たばこ・飼料	42	1.6	1,215	1.0	60,693	1.6
繊維	150	5.6	4,544	3.6	68,590	1.8
木材・木製品・家具	153	5.7	3,009	2.4	68,428	1.8
パルプ・紙・紙加工品	79	2.9	3,901	3.1	146,730	3.8
印刷・同関連	101	3.7	2,306	1.8	34,736	0.9
<b>化学</b>	<b>123</b>	<b>4.6</b>	<b>14,817</b>	<b>11.9</b>	<b>733,572</b>	<b>19.0</b>
石油製品・石炭製品	13	0.5	104	0.1	5,092	0.1
プラスチック製品	214	7.9	8,699	7.0	174,793	4.5
窯・土石製品	146	5.4	3,262	2.6	78,011	2.0
鉄鋼	59	2.2	4,442	3.6	185,501	4.8
<b>非鉄金属</b>	<b>68</b>	<b>2.5</b>	<b>6,465</b>	<b>5.2</b>	<b>370,699</b>	<b>9.6</b>
<b>金属製品</b>	<b>470</b>	<b>17.4</b>	<b>19,237</b>	<b>15.4</b>	<b>405,014</b>	<b>10.5</b>
はん用機械	85	3.1	3,009	2.4	72,327	1.9
<b>生産用機械</b>	<b>319</b>	<b>11.8</b>	<b>14,962</b>	<b>12.0</b>	<b>527,635</b>	<b>13.7</b>
業務用機械	13	0.5	807	0.6	36,117	0.9
<b>電子部品・デバイス・電子回路</b>	<b>80</b>	<b>3.0</b>	<b>9,274</b>	<b>7.4</b>	<b>377,764</b>	<b>9.8</b>
電気機械	81	3.0	2,633	2.1	48,221	1.2
情報通信機械	12	0.4	440	0.4	6,667	0.2
輸送用機械	74	2.7	5,816	4.7	151,310	3.9
その他*	92	3.4	6,905	5.5	152,219	3.9
<b>製造業計</b>	<b>2,700</b>	<b>100.0</b>	<b>124,909</b>	<b>100.0</b>	<b>3,863,544</b>	<b>100.0</b>
全国に占める比率(%)	1.4		1.6		1.2	

\* 「その他」は「製造業計」から表中の業種合計を減じた計数

## ▽ 富山県と全国の製造業 業種別工業出荷額構成比（2017年）



\* 「電気機械」には、電子部品・デバイス等を含む。（出所）経済産業省 工業統計表

## ② 個別業種の特徴

### 【化学】

- 富山県の化学工業のうち、製造品出荷額で7割以上を占めるのが、医薬品関係です。歴史の項でも触れたように、製薬業は、江戸時代から富山藩の中心産業として発達してきました。現在は、全国の医薬品生産金額の9.0%、全国順位では第2位（2018年、厚生労働省）を占める全国有数の薬産地として、ジェネリック医薬品、一般用医薬品、配置家庭薬、原薬等、高い製造技術を誇る多くの地場薬品企業や大手メーカーの工場があります。また、貼り薬、軟膏、点眼薬、ドリンク剤等さまざまな形態の薬品を得意とする企業が存在することも特徴です。
- 医薬品工業が発達したことで、容器や包装資材、添付文書やパッケージの印刷等も、周辺産業として発達してきています。

### 【アルミ関連（非鉄金属、金属製品）】

- 富山県では、江戸後期に発展した高岡銅器の伝統による鑄造技術等の素地や、豊富な水資源と安価な電力等を背景に、これらを必要とするアルミ関連産業が発展しました。1930年代には既にアルミ企業が設立されていましたが、高度経済成長期にアルミサッシ等アルミ建材の需要が急増したこと、1964年の新産業都市指定後、臨海地域にアルミ関連工場が集積したことから、さまざまなアルミ関連産業が発展していきました。
- 製造品出荷額(2019年)でみると、アルミ関係は、「非鉄金属」のうち60%、「金属製品」のうち42%を占めています（富山県工業統計表）。アルミサッシの用途は、住宅用が3分の2、ビル用が3分の1となっています。

## (2) 非製造業の特徴

### ① 業種別構成比等

- 非製造業の業種別構成比をみますと、電気・ガス・水道や保健衛生・社会事業のウェイトが全国平均より高い一方、情報通信業、卸・小売等がやや低くなっています。

#### ▽ 非製造業の業種別構成比等

	富山県		構成比 (%)	北陸	全県計
	名目金額 (億円)	全国順位		構成比 (%)	構成比 (%)
<b>電気・ガス・水道</b>	<b>1,690</b>	<b>30 位</b>	<b>5.6</b>	4.2	3.8
建設業	2,604	32 位	8.6	9.5	7.3
<b>卸売・小売業</b>	<b>4,562</b>	<b>32 位</b>	<b>15.1</b>	15.4	16.3
運輸・郵便業	1,852	34 位	6.1	5.6	6.6
宿泊・飲食サービス業	1,067	34 位	3.5	3.9	3.2
情報通信業	1,362	30 位	4.5	4.5	6.3
金融・保険業	1,575	31 位	5.2	5.2	5.6
<b>不動産業</b>	<b>4,447</b>	<b>35 位</b>	<b>14.8</b>	14.2	15.2
専門・科学技術、業務支援 サービス業	2,254	35 位	7.5	8.6	9.8
公務	1,730	40 位	5.7	6.0	5.8
教育	1,527	43 位	5.1	5.7	5.0
<b>保健衛生・社会事業</b>	<b>3,504</b>	<b>39 位</b>	<b>11.6</b>	11.1	9.5
その他のサービス	1,966	32 位	6.5	6.2	5.7
合計	30,141		100.0	100.0	100.0

(出所) 内閣府「県民経済計算」

### ② 観光産業の特徴

- 富山県の観光資源は、立山黒部アルペンルート、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟している富山湾等の豊かな自然のほか、宇奈月温泉、五箇山合掌造集落や江戸の町並みを残す高岡の集落や岩瀬の町並み、国宝指定されている瑞龍寺、富山県のモノづくりの技術を学べる企業博物館による産業観光等、多岐にわたっています。
- また、となみチューリップフェア(入込数約 30 万人)や、おわら風の盆(同約 20 万人超)、高岡御車山祭(同約 15 万人)等の多彩な祭やイベントもあります。さらに「天然のいけす」と言われる富山湾の新鮮な魚介類やその加工品等、食の面でも観光客を惹きつけています。

- 2015 年の北陸新幹線開業により、首都圏からのアクセスが大幅に改善したことで、県内主要観光地・観光施設への入込数が増加したほか、金沢や能登半島等を含めた北陸の周遊観光も発展しています。今後、北陸新幹線の敦賀延伸により、さらに北陸地域の観光拠点を結んだ広域の観光振興が期待されます。また、インバウンドの比率引き上げも、今後の課題といえます。

#### ▽ 主な観光地・観光施設への入込数推移

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
富岩運河環水公園	N. A	N. A	1,188	1,265	1,390	1,377	1,543	2,515	2,256
立山黒部アルペンルート	1,001	827	885	958	909	997	922	929	981
黒部峡谷鉄道	445	373	370	351	342	402	353	339	336
宇奈月温泉	337	308	318	308	290	375	367	364	333
海王丸パーク	669	756	979	1,002	990	1,075	1,016	1,007	1,103
瑞龍寺	185	184	176	176	159	247	214	176	169
計	-	-	3,916	4,060	4,080	4,473	4,415	5,330	5,178

(出所) 富山県「富山県観光客入込数」

#### ▽ 県内延宿泊者数の推移

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
県内延宿泊者数	2,563	2,682	2,799	2,888	2,849	3,991	3,408	3,895	3,780
うち外国人宿泊者	96	59	81	129	147	200	229	282	300
外国人の比率 (%)	3.7	2.2	2.9	4.5	5.2	5.0	6.7	7.2	7.9

\* 県内延宿泊者数は、従業員 10 人以上は全施設・10 人未満は抽出調査、外国人宿泊者数は県内全宿泊施設。

(出所) 富山県「富山県観光客入込数」

以 上